

# 外国人技能実習生に対する「やさしい日本語」を活用した効果的な避難訓練の提案 —ベトナム人技能実習生が参加した青森県弘前市の避難訓練の事例より—

中村智行<sup>1</sup>

## Proposal for Effective Evacuation Drills Using “Easy Japanese” for Foreign Technical Intern Trainees: From a Case Study of Evacuation Drills in Hirosaki City, Aomori Prefecture, in Which Vietnamese Technical Intern Trainees Participated

Tomoyuki NAKAMURA<sup>1</sup>

### Abstract

In this report, two evacuation drills were conducted for Vietnamese technical intern trainees in Hirosaki City, Aomori Prefecture, under the assumption of an earthquake. As a result, it is highly likely that the method based on this training will be effective for other foreign technical intern trainees to participate in evacuation drills. In addition, this method may be used more effectively in evacuation drills if 3 hours of advance education on “easy Japanese” is provided to evacuation guide staff, English and illustrations (pictograms) are used on “flipboards”, the size of the “flipboard” is A2, and the font size is 100 points or larger.

キーワード：外国人，技能実習生，ベトナム人，やさしい日本語，避難訓練  
Key words: foreigners, technical interns, Vietnamese, easy Japanese, evacuation drill

### 1. はじめに

わが国における在留外国人の数は，出入国在留管理庁（2022a）によると，2020年12月現在，在留外国人数は全国で約289万人である。在留資格別では，特別永住者や永住者等が約6割を占めているものの，「技能実習生」の数は，1993年に創設

された「外国人技能実習制度」の受入対象職種が拡大されたことにより年々増加し，2019年には約41万人と過去最高を記録している。2020年は新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により約38万人に減少したものの，国籍・地域別では，ベトナムからの技能実習生が最も多く，2020年12月現

<sup>1</sup> 青森中央学院大学経営法学部  
Faculty of Management and Law, Aomori Chuo Gakuin University

本稿に対する討議は2024年2月末日まで受け付ける。

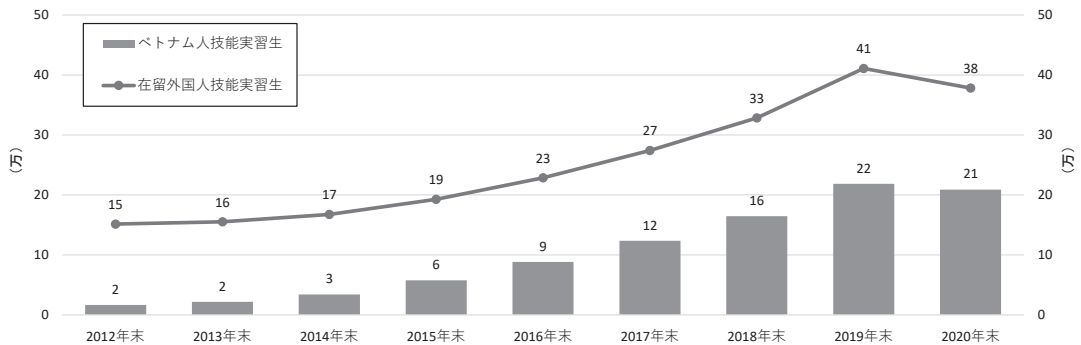


図1 外国人技能実習生の推移（出入国在留管理庁，2022b）

在で約21万人と技能実習生全体の約55%を占めている（図1）。技能実習生の特徴として、出入国在留管理庁（2021）の調査によると、他の在留外国人と比べて、30歳未満の若い世代が約8割と多くなっている。また、日本語能力については「日本人と同程度」に会話できる割合が1割未満と低く、8割以上が友人・知人と同居生活しているという特徴がある。このように、わが国では、多くの日本語能力の低い技能実習生同士が同居生活をしており、災害発生時には自らが迅速に避難行動をとる必要がある。

技能実習生を含む外国人の防災対策については、災害対策基本法に基づき、「特に配慮を要する者」として防災上必要な措置を行うことが求められている。押田ら（2018）は、都道府県の地域防災計画の中で、「外国人」の記載があったのは30都道府県であり、記載内容も「災害時に外国人対応も行う」程度に留まっていることを明らかにしている。また、総務省では、2011年3月に発生した東日本大震災を受け、地方自治体における外国人住民との多文化共生の推進を検討するため「多文化共生の推進に関する研究会（以下、「研究会）」をスタートさせている。研究会では、災害発生時に多文化共生を適切に対応するためには、平常時からの取り組みが不可欠であり、平常時の地域活動や避難訓練に多くの外国人住民が参画していることが重要であるとしている。しかしながら、多くの地方自治体ではこのような事例は少なく、平常時の多文化共生の取り組みが不十分であると考え

ている地方自治体が8割前後にもものぼることから、研究会では、より実践的で多くの外国人住民が参加する避難訓練の実施が重要であると提言している（総務省，2012）。

2017年に総務省消防庁により「外国人来訪者や障がい者等に配慮した災害情報の伝達及び避難誘導のための試行訓練（総務省消防庁（2018）」が全国6か所で行われたが、参加した外国人は在留資格を問わない外国人であり、多くの外国人技能実習生が参加した避難訓練については、全国的にみてもほとんど実施されていないのが現状である。災害が発生した場合には、施設関係者等の指示を理解し、安全な場所へ速やかに避難する必要があることから、多くの外国人技能実習生が参加する避難訓練を実施することは極めて重要であるといえるであろう。

本研究では、青森県弘前市（以下、「弘前市」）において、多くのベトナム人技能実習生（新日本語能力検定試験N5程度）が参加して実施した2回の避難訓練の事例をもとに、外国人技能実習生に対する効果的な避難訓練について提案するとともに、避難誘導における「やさしい日本語」の活用方法を検討することを目的とする。

なお、「やさしい日本語」とは、弘前大学社会言語研究室（2013）によると、日本語学習者が初期の段階で学ぶ約2,000の語彙と、単文を主とした単純な構造のため、日本語を学習しはじめた外国人でも、災害時に適切な行動が取れる表現となっており、新日本語能力検定試験のN4、5の

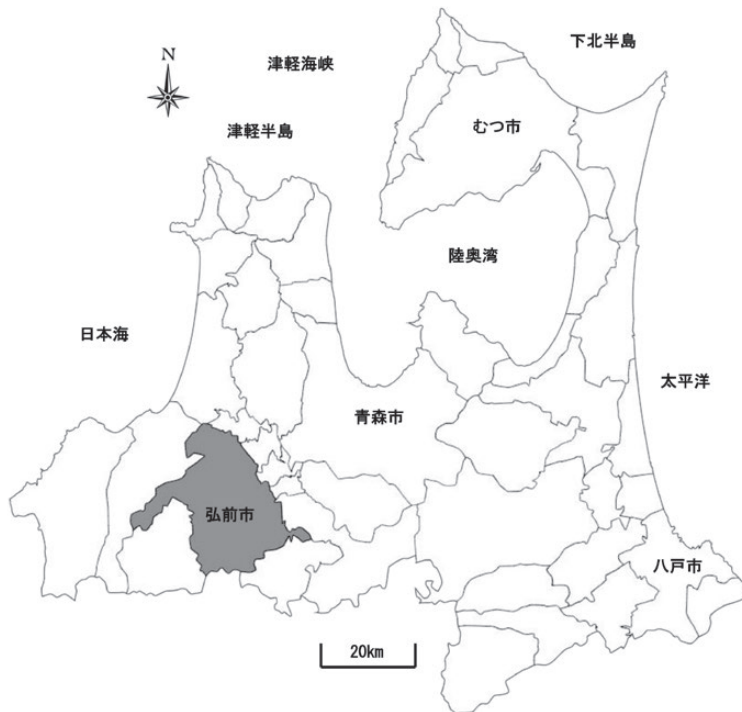


図2 対象地域の位置図

日本語に相当するとされている。

災害発生時の避難訓練が課題となっていた。

## 2. 対象地域と訓練概要

### 2.1 対象地域

弘前市は、青森県西部にある人口約17万人、面積521.4 km<sup>2</sup>の、日本で最初に市制を施行した都市の一つであり、弘前藩の城下町として発展してきた(図2)。市の中心部に位置する「弘前公園」では「弘前さくらまつり」が開催され、毎年200万人以上の観光客が訪れている(例えば青森県観光国際戦略局, 2021)。また、地域防災拠点として整備され、2017年に青森県で29年ぶりにプロ野球一軍の公式戦が開催された弘前市運動公園の「はるか夢球場」においても、多くのイベントが開催されている。地震調査研究推進本部, (2021)によると、日本では今後30年間に震度6弱以上の揺れに遭遇する確率が高くなっており、弘前市では、このような場所で大きな地震が発生した場合に備え、近年増加している外国人技能実習生に対する

### 2.2 訓練概要

#### (1) 「弘前公園」の避難訓練

「弘前公園」での避難訓練(以下、「訓練①」)は、「弘前さくらまつり」の関係者(以下、「誘導者①」)が、ベトナム人技能実習生(以下、「ベトナム人①」)に対し、「やさしい日本語」を用いて地震情報を伝達し、安全な場所まで避難誘導することができるかを目的に実施した。表1に訓練の概要を示すとともに、その様子を写真1に示す。

実施日は2019年4月11日であり、天候は晴れであった。「弘前さくらまつり(2019年4月20日～5月6日)」の9日前であり、弘前公園内では、おおむね祭りの準備が完了している状況である。訓練①では、「弘前さくらまつり」期間中に、弘前市で日本海を震源とする震度6弱(青森県, 2016による想定)の地震が発生したという想定のもと実施した。なお、より実践的な避難行動を調

表1 訓練①の概要

日時	2019年4月11日(木) 午前10:30
場所	弘前公園, 弘前市立観光館
被誘導者	ベトナム人技能実習生28名 (2019年3月28日入国) ※新日本語能力検定 N5 程度
避難誘導者	弘前さくらまつり関係者(弘前市職員, 弘前市観光ボランティアガイドの会, 弘前市みどりの協会, 弘前市赤十字奉 仕団) 14名
「やさしい日本語」 の伝達手段	①アナウンス(防災行政無線) ②フリップボード(A3版)
想定条件	震度6弱の地震が発生(青森県, 2016)



写真1 訓練①の様子

査するため、ベトナム人①(28名)には訓練のシナリオを提示せずに参加してもらった。また、誘導者①(14名)には、シナリオを提示するとともに「やさしい日本語」を正しく理解してから使用できるよう、弘前大学社会言語研究室の佐藤和之氏により90分の事前教育を実施した。

午前10:30に訓練を開始し、ベトナム人①を追手門から2名1組のペア14組を20秒ごとに出発させ、公園内を自由に散策してもらった。午前10:33に公園内に隣接する弘前市防災行政無線のスピーカーを使用し、「やさしい日本語」を用いて強い地震が発生したと身を守ることを放送した。その2分後の午前10:35には、地震がおさまったことと避難のよびかけを放送した。誘導者①には、地震発生の放送が始まると同時にペアに駆け寄ってもらい、「やさしい日本語」のA3版両面のフリップボード(写真2)を用いて、地震が発生したことを知らせるとともに、自分の身を

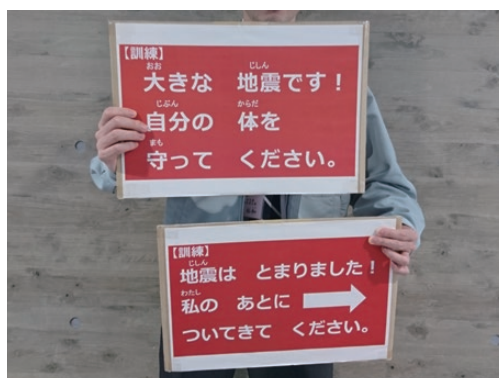


写真2 「やさしい日本語」を用いたA3版のフリップボード(訓練①②)(上部が表面で下部が裏面)

守ることを促した(表面提示)。そして地震がおさまった後、弘前市立観光館まで避難誘導を開始した(裏面提示)。避難経路上には警察官を配置し、参加者の安全を確保して実施した。午前10:45ごろまでには、ベトナム人①全員が弘前市立観光館へ避難することができた。避難場所では、全員にアンケート調査を実施した。

## (2)「はるか夢球場」の避難訓練

訓練①において、「やさしい日本語」のアナウンスとフリップボードを用いて、ベトナム人①を指定緊急避難場所まで安全に誘導することができた。そこで、「はるか夢球場」での避難訓練(以下、「訓練②」)では、ベトナム人技能実習生(以下、「ベトナム人②」)が、どのような伝達手段をもとに避難行動を開始するのかを検証するため、「やさしい日本語」での伝達手段を増やして行った。表2に訓練の概要を示すとともに、訓練の様子を写真3に示す。

実施日は2019年9月27日であり、天候は晴れであった。この訓練は、「はるか夢球場」でのイベント開催中に、弘前市で直下型の震度6強(青森県, 2014による想定)の地震が発生したとの想定で実施した。なお、より実践的な避難行動を調査するため、訓練①と同様に、ベトナム人②44名には訓練のシナリオを提示せずに参加してもらったほか、参加した施設関係者(以下、「誘導者②」)の7名には、シナリオを提示するとともに「やさ



表2 訓練②の概要

日時	2019年9月27日(木) 午前9:40
場所	弘前市運動公園「はるか夢球場」
被誘導者	ベトナム人技能実習生44名 (2019年9月11日入国) ※新日本語能力検定N5程度 日本人6名
避難誘導者	施設関係者(弘前市職員, 弘前市体育協会)7名
「やさしい日本語」の伝達手段	①アナウンス(球場) ②フリップボード(A3版) ③大型ビジョン
想定条件	震度6強の地震が発生(青森県, 2014)



写真3 訓練②の様子

しい日本語」を正しく理解してから使用できるよう、弘前大学社会言語学研究室の佐藤和之氏により90分の事前教育を実施した。

午前9:30までに、ベトナム人②(44名)と日本人(6名)は、1塁側のスタンド(ベトナム人②(22名), 日本人(3名))と3塁側のスタンド(ベトナム人②(22人), 日本人(3名))にそれぞれ着席した。午前9:40に球場の放送設備を使用し、緊急地震速報の音を鳴らした。午前9:41に球場放送と大型ビジョンを使用し、「やさしい日本語」を用いて強い地震が発生したことと身を守ることを放送・表示した(写真4)。その1分後の午前9:42に、地震がおさまったことと避難のよびかけの放送と表示を行った。誘導者②には、地震発生の放送が始まると同時にスタンドの前に出てもらい、「やさしい日本語」のA3版両面のフリップボード(写真2)を用いて、地震が発生したこと



写真4 「やさしい日本語」を用いた大型ビジョン(訓練②)

を知らせるとともに、自分の身を守ることを促した(表面提示)。そして地震がおさまった後、ピッチャーマウンド付近まで避難誘導を開始した(裏面提示)。午前9:45ごろまでには、全員がピッチャーマウンド付近へ避難することができた。その後、球場内の会議室に移動し、全員にアンケート調査を実施した。

なお、本訓練で使用した「フリップボード(写真2)」の特徴と活用方法は表3に示すとおりで、大きさは、誰でも作成しやすいうように、A3版の段ボールの両面にA3用紙を貼付した構造とし、文字は、背景が赤色の白抜き、字体はメイリオ、大きさは80~88ポイント、文字数は19~23文字、音数は25~26音とした。文の書き方としては、弘前大学社会言語学研究室(2013)を基本とし、漢字はできるだけ少なくするとともに、使用した漢

表3 「やさしい日本語」を用いた「フリップボード」の仕様と活用方法

大きさ・構造	①A3版の段ボールの両面にA3用紙を貼付
文字(色・字体・大きさ)	①背景赤色で80~88ポイントの白抜き文字(メイリオ)
文字数	①19文字25音(表面) ②23文字26音(裏面)
文の書き方	①「やさしい日本語」を活用し漢字はできるだけ少なくする ②漢字にはルビをふる ③文節の間に余白を空けて区切り「分ち書き」にする ④3行
活用方法	①被誘導者に頭上前方に掲げて見せる ②1分間に約360拍のスピードで読む ③文節間で0.5秒以内のポーズをとる ④身振り手振りを併せて読む

字にはルビをふった。また、文節の間には余白を空けて区切る「分かち書き」とし3行とした。また、見せ方としては、できるだけ被誘導者に見えやすいよう、「フリップボード」を前方頭上に掲げ、読み方としては、弘前大学社会言語研究室の佐藤和之氏の指導（例えば佐藤和之（2021）など）のもと、1分間に約360拍のスピードで、文節間では0.5秒以内のポーズをとり、ジェスチャーを交えながら読んだ。

### 3. 調査結果

#### 3.1 訓練①のアンケート結果

ベトナム人①（28名）と誘導者①（14名）を対象として、訓練①に関するアンケート調査を実施した。回答率は100%であった。

##### (1) 地震に関する認識

本項では、ベトナム人①（28名）の地震に関する認識についてみていく。図3、4、5、6にその結果を示す。なお、年代構成については全員20代である。

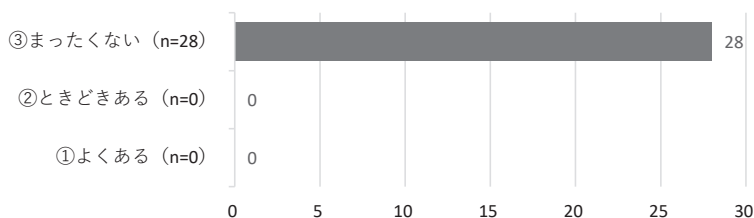


図3 ベトナムでの地震の経験について (訓練①) N=28

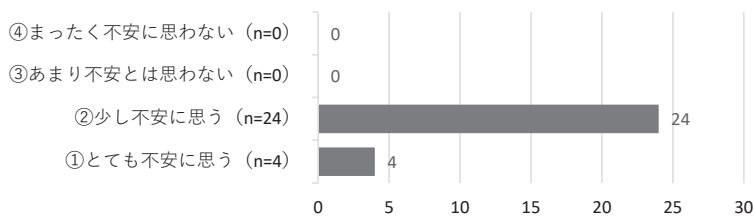


図4 日本での地震の不安について (訓練①) N=28

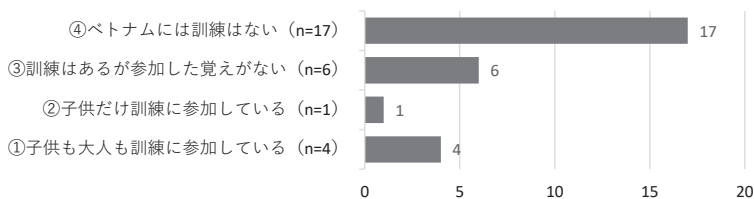


図5 ベトナムでの地震訓練への参加 (訓練①) N=28

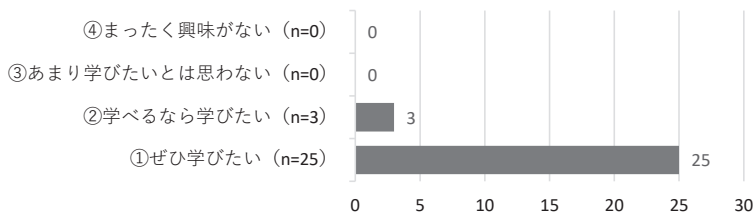


図6 日本での地震訓練について (訓練①) N=28

まず「あなたはベトナムで地震を経験したことがありますか」という設問に対して回答してもらったところ、全員(28名)が地震の経験が「まったくない」ことがわかった。つぎに、「あなたは日本にいて大きな地震がくるのではないかと不安になることがありますか」という設問に対して回答してもらったところ、4名が「とても不安に思う」、24名が「少し不安に思う」と回答しており、全員(28名)が日本の地震に対して不安に思っていることがわかった。さらに、「ベトナムには地震がおきたらどうやって自分の安全を守るかの訓練はありますか」という設問に対して回答してもらったところ、23名が「ベトナムで訓練に参加したことがない」と回答しており、8割以上が、地震の訓練に今回初めて参加したと考えられる。おわりに、「あなたは日本にいた間に地震が起きたときの体の守り方などを学びたいですか」という設問に対して回答してもらったところ、25名が「ぜひ学びたい」、3名が「学べるなら学びたい」と回答しており、全員(28名)が日本で地震が起きたときの体の守り方を、学びたいと思っていることがわかった。

**(2) 避難誘導に関する認識**

本項では、誘導者①(14名)の避難誘導に関する認識についてみていく。回答者の年代構成を図

7に示す。

まず、誘導者①の「やさしい日本語」の認識を把握するために、「あなたは『やさしい日本語』という外国人のための日本語があることを知っていましたか」という設問に対して回答してもらったところ、図8に示したように3名が「知っていた」、3名が「聞いたことがある」、8名が「今回初めて知った」と回答しており、6割近くが今回の訓練で初めて「やさしい日本語」を知ったことがわかった。続いて図9、10、11に避難誘導に関する認識状況を示す。まず、「『やさしい日本語』を使ってあなたが伝えた避難の方向は外国人に伝わりましたか」という設問に対して回答してもらったところ、8名が「伝わった」、4名が「どちらかといえば伝わった」と回答しており、8割以上が「やさしい日本語」での誘導が伝わったと感じていることがわかった。つぎに、「あなたが誘導した外国人はスムーズに避難場所まで移動したと思えますか」という設問に対して回答してもらったところ、8名が「スムーズに移動したと思う」、6名が「どちらかといえばスムーズに移動したと思う」と回答しており、全員(14名)がベトナム人①をスムーズに移動させることができたと感じていることがわかった。さらに、「『やさしい日本語』を使って外国人を安全な場所へ誘導するのは

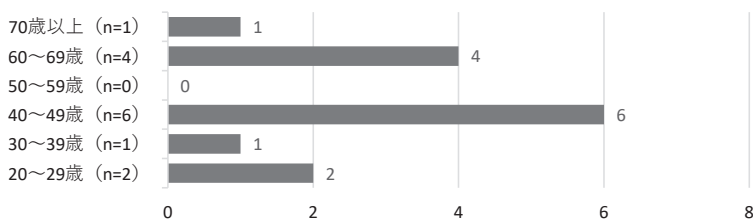


図7 誘導者①の年代構成(訓練①) N=14

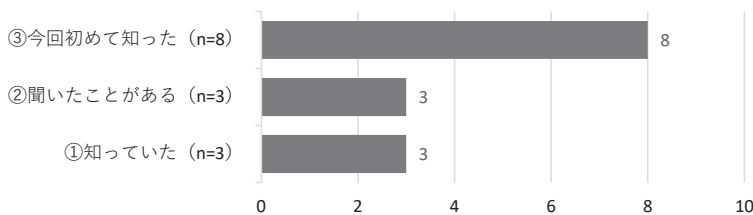


図8 「やさしい日本語」の認識について(訓練①) N=14

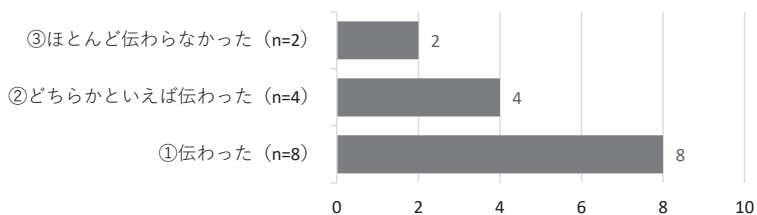


図9 「やさしい日本語」の伝達について (訓練①) N=14

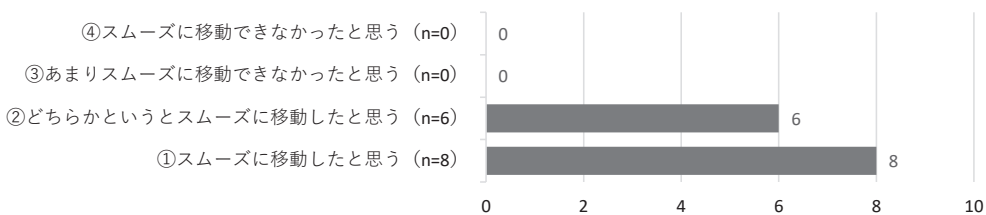


図10 「やさしい日本語」の誘導について (訓練①) N=14

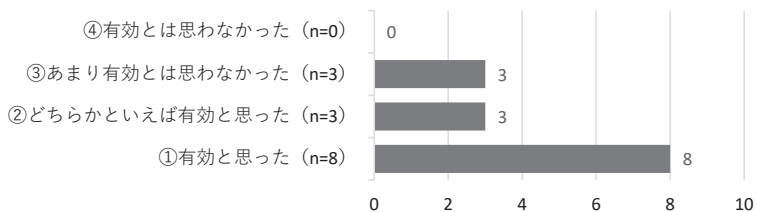


図11 「やさしい日本語」の有効性について (訓練①) N=14

有効と思いましたが」という設問に対して回答してもらったところ、8名が「有効と思った」、3名が「どちらかといえば有効と思った」、3名が「あまり有効とは思わなかった」と回答しており、8割弱が「有効と思った」、2割強が「あまり有効とは思わなかった」と感じることがわかった。その理由について図12、13にそれぞれ示す。「有効と思った」と「どちらかといえば有効と思った」理由では、「緊急時に誘導者は日本語なので、ためらうことなく伝えられるから」が最も多く、「あまり有効と思わなかった」理由では、「日本語が分からない外国人には誘導者の案内が伝わらないから」が多かった。また、「あなたは『やさしい日本語』以外の外国語でも避難誘導すべきと思いますか」という設問に対して回答してもらったところ、図14に示したとおり「世界共通語の英語でも誘導すべき」という回答が6名と最も多かった。

おわりに、「あなたは今日の訓練で自信をもって外国人を避難誘導できましたか」という設問に対して回答してもらったところ、図15に示したように4名が「自信をもって誘導ができた」、6名が「どちらかといえば自信をもって誘導ができた」、3名が「どちらかといえばあまり自信をもった誘導はできなかった」、1名が「自信をもった誘導はできなかった」と回答しており、7割強が「自信をもって誘導できた」一方で、3割弱が「あまり自信をもった誘導ができなかった」と感じていたことがわかった。

### 3.2 訓練②のアンケート結果

ベトナム人②(44名)と誘導者②(7名)を対象として、訓練②に関するアンケート調査を実施した。回答率は100%であった。



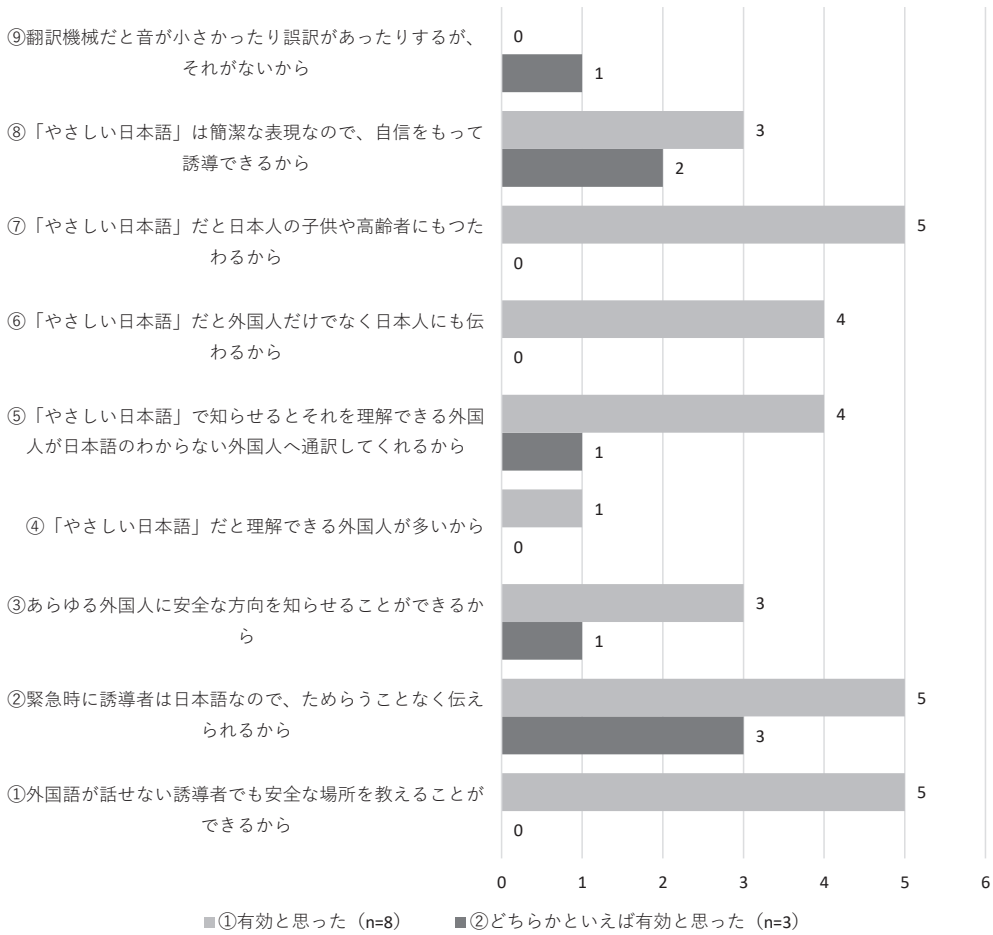


図12 有効と思った理由 (複数回答) (訓練①)

(1) 地震と避難に関する認識

本項では、ベトナム人② (44名) の地震と避難に関する認識についてみていく。図16, 17, 18, 19, 20にその結果を示す。なお、年代構成については全員20代である。

まず、「あなたはベトナムで地震を経験したことがありますか」という設問に対して回答してもらったところ、全員 (44名) が地震の経験が「まったくない」ことがわかった。つぎに、「あなたは日本にいて大きな地震がくるのではないかと不安になることがありますか」という設問に対して回答してもらったところ、22名が「とても不安に思う」、21名が「少し不安に思う」と回答しており、ほぼ全員 (43名) が日本の地震に対して不安に

思っていることがわかった。つづいて、「ベトナムには地震がおきたらどうやって自分の安全を守るかの訓練はありますか」という設問に対して回答してもらったところ、41名が「ベトナムで訓練に参加したことがない」と回答しており、9割以上が、地震の訓練に今回初めて参加したと考えられる。さらに、「あなたは日本にいる間に地震が起きたときの体の守り方などを学びたいですか」という設問に対して回答してもらったところ、全員 (44名) が日本で地震が起きたときの体の守り方を、学びたいと思っていることがわかった。おわりに、「あなたは今日の訓練でなぜグランドへ逃げましたか」という設問に対して複数回答してもらったところ、39名が「フリップボードを見た



図13 有効ではないと思った理由 (複数回答) (訓練①)

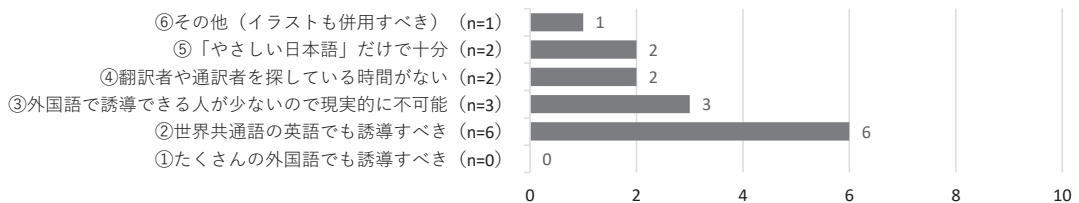


図14 「やさしい日本語」以外の外国語での避難誘導について (訓練①) N = 14

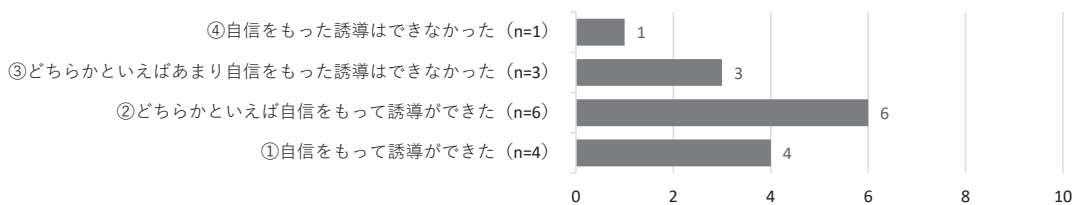


図15 自信をもって避難誘導できたか (訓練①) N = 14

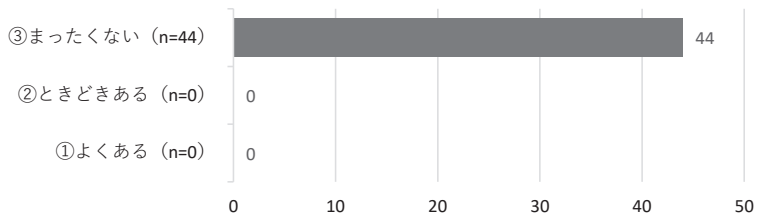


図16 ベトナムでの地震の経験について (訓練②) N = 44

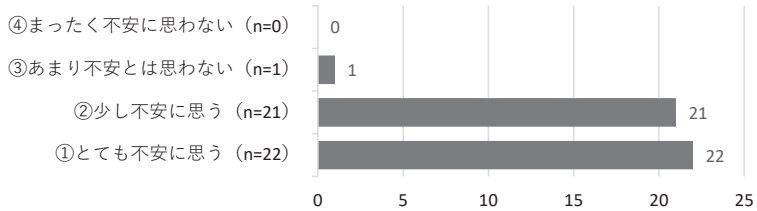


図17 日本での地震の不安について (訓練②) N = 44

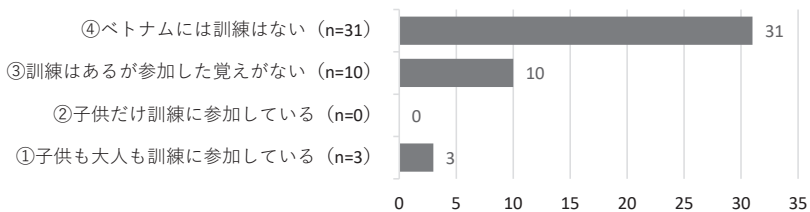


図18 ベトナムでの地震訓練への参加 (訓練②) N = 44

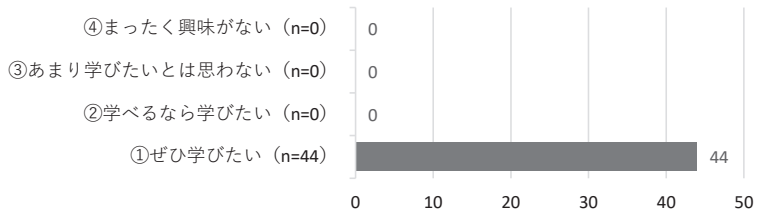


図19 日本での地震訓練について (訓練②) N = 44

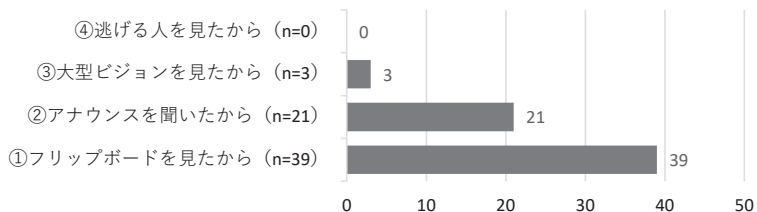


図20 避難行動を判断した伝達手段について (訓練②) N = 44 (複数回答)

から」、21名が「アナウンスを聞いたから」、3名が「大型ビジョンを見たから」と回答しており、9割近くが、「やさしい日本語」のフリップボ

ドを見てから避難したことがわかった。

(2) 避難誘導に関する認識

本項では、誘導者②(7名)の避難誘導に関す

る認識についてみていく。回答者の年代構成を図21に示す。まず、誘導者②の「やさしい日本語」の認識を把握するために、「あなたは『やさしい日本語』という外国人のための日本語があることを知っていましたか」という設問に対して回答してもらったところ、図22に示したように2名が「知っていた」、1名が「聞いたことがある」、4名が「今回初めて知った」と回答しており、6割近くが今回の訓練で初めて「やさしい日本語」を知ったことがわかった。続いて図23、24、25に避

難誘導に関する認識状況を示す。まず、「『やさしい日本語』を使ってあなたが伝えた避難の方向は外国人に伝わりましたか」という設問に対して回答してもらったところ、2名が「伝わった」、3名が「どちらかといえば伝わった」と回答しており、7割強が「やさしい日本語」での誘導が伝わったと感じていることがわかった。つぎに、「あなたが誘導した外国人はスムーズに避難場所まで移動したと思いますか」という設問に対して回答してもらったところ、3名が「スムーズに移

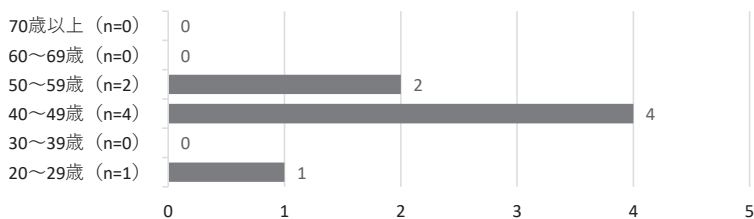


図21 誘導者②の年代構成 (訓練②) N = 7

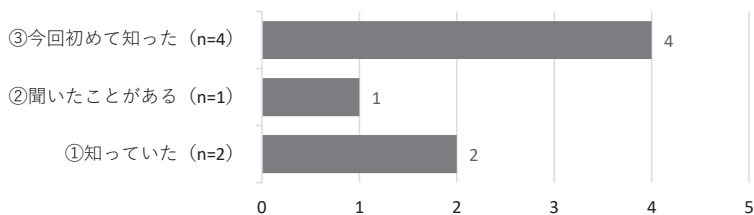


図22 「やさしい日本語」の認識について (訓練②) N = 7

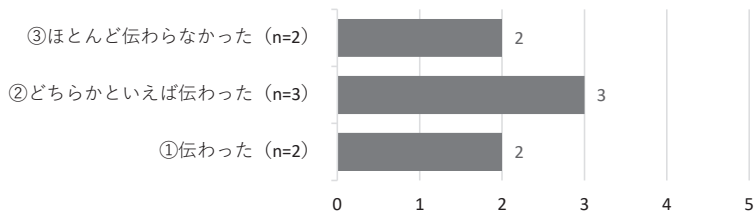


図23 「やさしい日本語」の伝達について (訓練②) N = 7

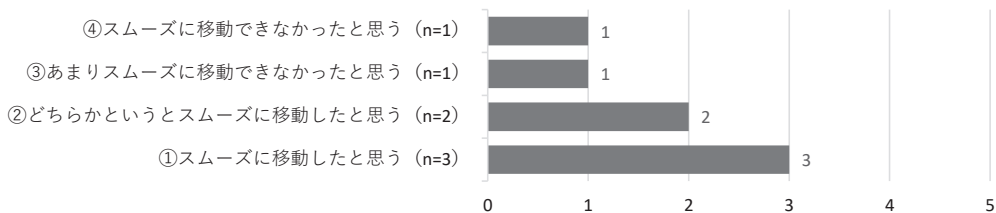


図24 「やさしい日本語」の誘導について (訓練②) N = 7

動したと思う」, 2名が「どちらかといえばスムーズに移動したと思う」と回答しており, 7割強がベトナム人②をスムーズに移動させることができたと感じていることがわかった。さらに, 「『やさしい日本語』を使って外国人を安全な場所へ誘導するのは有効と思いませんか」という設問に対し

て回答してもらったところ, 2名が「有効と思った」, 4名が「どちらかといえば有効と思った」と回答しており, 8割以上が「有効と思った」と感じていることがわかった。「有効と思った」理由については, 図26に示すように, 「外国語が話せない誘導者でも安全な場所を教えることができる

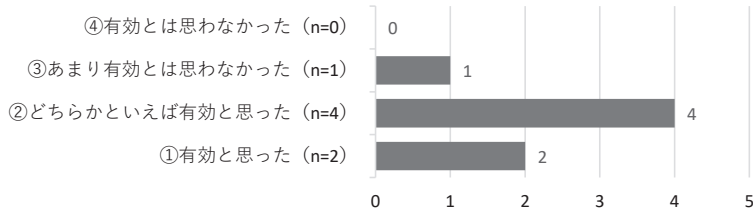


図25 「やさしい日本語」の有効性について (訓練②) N = 7

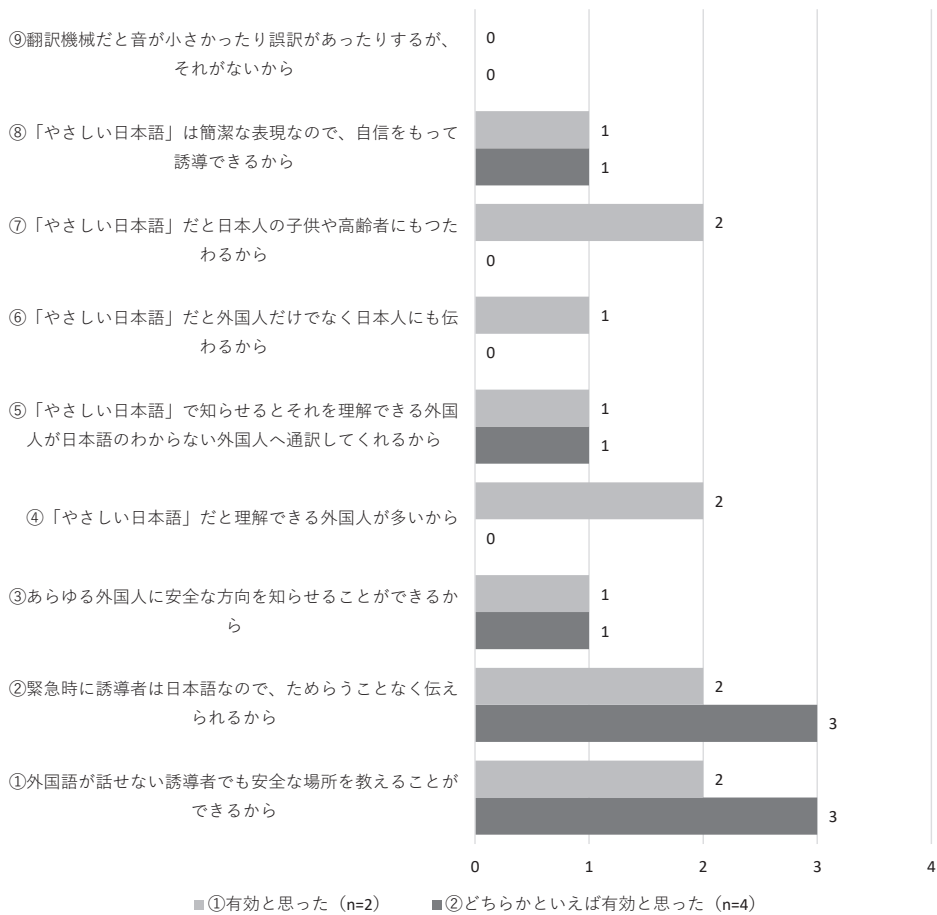


図26 有効と思った理由 (複数回答) (訓練②)



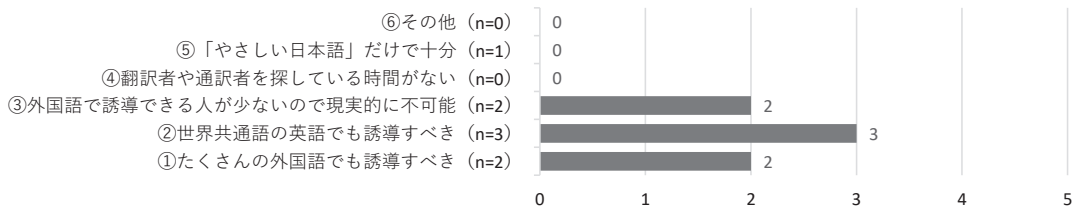


図27 「やさしい日本語」以外の外国語での避難誘導について (訓練②) N = 7

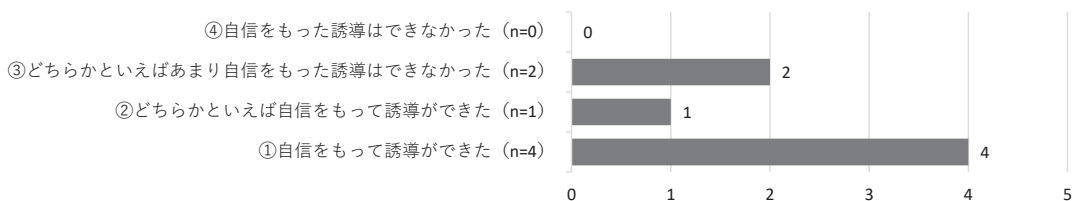


図28 自信をもって避難誘導できたか (訓練②) N = 7

から」と「緊急時に誘導者は日本語なのでためらうことなく伝えられるから」が最も多く、「あまり有効と思わなかった」1名の理由は、「緊急時の誘導は身振り・手振りで十分」であった。また、「あなたは『やさしい日本語』以外の外国語でも避難誘導すべきと思いますか」という設問に対して回答してもらったところ、図27に示したとおり「世界共通語の英語でも誘導すべき」という回答が3名と最も多かった。おわりに、「あなたは今日の訓練で自信をもって外国人を避難誘導できましたか」という設問に対して回答してもらったところ、図28に示したように4名が「自信をもって誘導ができた」、1名が「どちらかといえば自信をもって誘導ができた」、2名が「どちらかといえばあまり自信をもった誘導はできなかった」と回答しており、7割強が「自信をもって誘導できた」一方で、3割弱が「あまり自信をもった誘導ができなかった」と感じていたことがわかった。

#### 4. 考察

外国人技能実習生は、新型コロナウイルス感染症の流行の影響により、外国人技能実習生の数は一時的に減少しているが、再び外国人技能実習生の数が増加した場合を見据え、外国人技能実習生を対象とした効果的な避難訓練を行うことは非常

に重要である。ここでは、本訓練をふまえ、外国人技能実習生に対する効果的な避難訓練について提案するとともに、避難誘導における「やさしい日本語」の活用方法を検討する。

##### 4.1 外国人技能実習生に対する効果的な避難訓練の提案

これまで外国人を対象とした避難訓練（例えば総務省消防庁（2018）など）は、在留資格を問わず比較的日本語能力の高い在留外国人を対象とし、訓練方法は、訓練対象者全員に事前にシナリオを提示する「シナリオ提示訓練」とすることが多かった。本訓練では、比較的日本語能力が低いベトナム人技能実習生（新日本語能力検定試験N5程度）を対象とし、訓練は、避難誘導者にはシナリオを提示し、ベトナム人技能実習生にはシナリオを提示しない方法で行った。避難誘導には表3で示した「フリップボード」を用いることで、ベトナム人技能実習生を安全な避難場所まで誘導することができた。その結果、8割以上の避難誘導者が「『やさしい日本語』を使って外国人を安全な場所へ誘導するのは有効である」と回答している。このことから本訓練による方法は、新日本語能力検定試験N5程度の他の外国人技能実習生を対象とした場合でも有効である可能性が高く、避難誘

導者の習熟度によっては訓練対象者全員に事前にシナリオを提示しない「シナリオ非提示訓練」に移行することで、より実践的な避難訓練になるものと考えられる。

#### 4.2 避難誘導における「やさしい日本語」の効果的な活用方法

本訓練では、「やさしい日本語」の「フリップボード」でベトナム人技能実習生を安全な場所まで避難誘導することができたが、「『やさしい日本語』で外国人を誘導するのはあまり有効ではない」と回答した避難誘導者が4名いたことから、本項ではここに注目してみる。表4に示すように、避難誘導者は「日本語が分からない外国人には誘導者の案内が伝わらないから」や「『やさしい日本語』に加えて英語やイラストでも誘導すべき」との回答が多く、その結果4名全員が自信をもって避難誘導ができなかったものと考えられる。今後は、避難誘導者が「やさしい日本語」は外国人に対しても有効であることを理解し、自信をもって避難誘導に使えるよう、「やさしい日本語」の事前教育に、使い方に関する90分の実習を加え合計3時間（講義90分・実習90分）とすることが望ましい。さらに「フリップボード」に英語やイラスト（ピクトグラム）も併用することにより、避難誘導者がより自信をもって避難誘導できるものと

表4 「やさしい日本語」が有効ではない理由 (N=4)

誘導者	「やさしい日本語」が有効ではないと思う理由	「やさしい日本語」以外の外国語でも避難誘導すべきか	自信をもって外国人を避難誘導できたか
訓練①	日本語が分からない外国人には誘導者の案内が伝わらない	英語でも誘導すべき	自信をもった誘導はできなかった
		イラストも併用すべき 英語でも誘導すべき	あまり自信をもった誘導はできなかった
訓練②	緊急時の誘導は身振り・手振りですら十分	英語でも誘導すべき	

考えられる。

つぎに、図20を詳細に分析したものを図29に示す。9割近くの39名が「フリップボードを見て」避難行動を開始し、その6割近く（全体の5割強）は「フリップボード」のみを見て避難行動を判断していることがわかった。また、「アナウンス」のみを聞いて避難行動を判断した者は全体の1割強の5名のみであり、「大型ビジョン」のみを見て避難行動を判断した者はいなかった。このことから、ベトナム人技能実習生にとって「フリップボード」は、避難行動を判断する有効な伝達手段となっているものと考えられる。しかしながら、「アナウンス」のみで避難行動を判断した者もいることから、今後は「フリップボード」をさらに目立たせるよう、サイズをA2版、文字サイズも

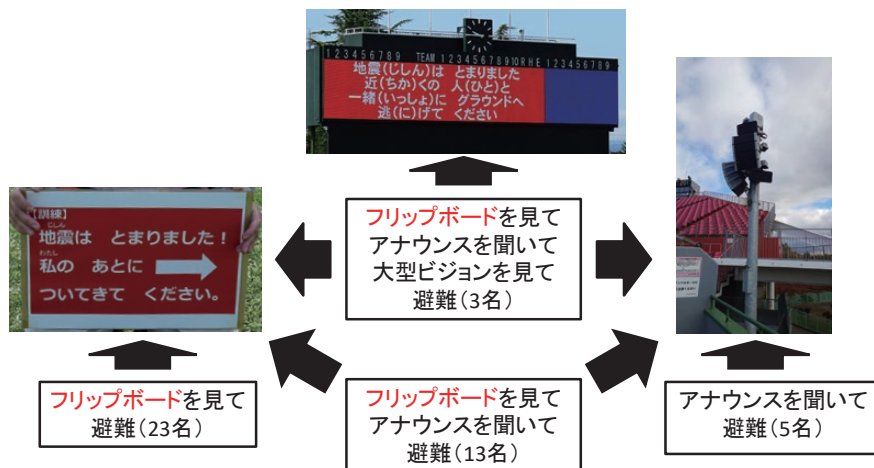


図29 ベトナム人技能実習生が避難行動を判断した伝達手段について

表5 「やさしい日本語」を用いた「フリップボード」の効果的な仕様と活用方法

大きさ・構造	① A2版の段ボールの両面にA3用紙2枚を貼付
文字 (色・字体・大きさ)	①背景赤色で100ポイント以上の白抜き文字(メイリオ)
文字数	①両面とも20文字25音程度
文の書き方	①「やさしい日本語」を活用し漢字はできるだけ少なくする ②漢字にはルビをふる ③文節の間に余白を空けて区切り「分かち書き」にする ④3行 ⑤英語を併記する ⑥イラスト(ピクトグラム)を併記する
活用方法	①被誘導者に頭上前方に掲げて見せる ②1分間に約360拍のスピードで読む ③文節間で0.5秒以内のポーズをとる ④身振り手振りを併せて読む

100ポイント以上などとするこゝで、より効果的に避難訓練に活用できるものとする。表5に本項で提案した「フリップボード」の仕様を示す。

## 5. 結論

本研究では、ベトナム人技能実習生に対する「やさしい日本語」を用いた避難訓練を実施し下記の知見を得た。

- (1) 本訓練で実施した、技能実習生にはシナリオを提示せず、避難誘導者にはシナリオを提示し「やさしい日本語」の「フリップボード」を用いて避難誘導する方法は、新日本語能力検定試験 N5 程度の他の外国人技能実習生を対象とした場合でも、双方にとって有効である可能性が高い。
- (2) 避難訓練への「やさしい日本語」の活用に関して、避難誘導者に対して3時間(講義90分・実習90分)の事前教育を行い、また「フリップボード」に英語やイラスト(ピクトグラム)を併記することで、避難誘導者が自信をもって誘導できると考えられる。
- (3) 「やさしい日本語」を用いた「フリップボード」は、避難行動を判断する有効な伝達手段となっているが、今後は「フリップボード」をさらに目立たせるよう、サイズをA2版、文字サイズも100ポイント以上とすることで、より効果的に避難訓練に活用できるものとする。

今後の課題としては以下のことがあげられる。今回の避難訓練ではベトナム人技能実習生を対象としたが、他の外国人技能実習生に対しても「やさしい日本語」を用いた「フリップボード」を活用した避難訓練を実施し、より効果的な避難訓練になるよう検証を行い、多くの訓練手法を開発していく必要がある。最後に、避難行動を決定する要因は複雑であると考えられることから、今後も外国人技能実習生に対する避難訓練を通して課題を明らかにしていく必要がある。

## 謝辞

本報告を行うにあたり、日本人材協同組合にはベトナム人技能実習生を訓練に派遣していただいた。また、弘前大学名誉教授 佐藤和之氏には「やさしい日本語」に関してご指導をいただいた。記して以上の方々へ厚くお礼申し上げます。

## 参考文献

- 青森県：平成27年度青森県地震・津波被害想定調査(日本海側海溝型地震)、青森県、246p、2016。  
 青森県：平成25年度青森県地震・津波被害想定調査、青森県、188p、2014。  
 青森県観光国際戦略局：令和元年青森県観光入込客数統計、青森県観光国際戦略局、38p、2021。  
 弘前大学社会言語学研究室：〈増補版〉「やさしい日本語」作成のためのガイドライン、弘前大学社会言語学研究室、29p、2013。  
 地震調査研究推進本部：全国地震動予測地図2000年

- 版, [https://www.jishin.go.jp/evaluation/seismic\\_hazard\\_map/shm\\_report/shm\\_report\\_2020/](https://www.jishin.go.jp/evaluation/seismic_hazard_map/shm_report/shm_report_2020/), 2022年10月31日閲覧.
- 押田佳子・安齊航也・久島琴音：わが国における「観光危機管理」の現状と課題 都道府県レベルにおける地域防災計画及び観光客対応マニュアルに着目して, 都市計画報告集, No.17, pp.339-342, 2018.
- 佐藤和之：日本語初級外国人に伝わる「やさしい日本語」を読むスピードの検討結果～日本人も受け入れるスピードと文意が伝わるポーズの時間について～, 南海トラフ地震に対応した外国人住民への「やさしい日本語」適応の研究, 2020年度科学研究費補助金基盤研究(C)実施状況報告書, p.1-19, 2021.
- 総務省：多文化共生の推進に関する研究会報告書, 34p, 2012.
- 総務省消防庁：外国人来訪者等が利用する施設における避難誘導のあり方等に関する検討部会報告書, 136p, 2018.
- 出入国在留管理庁：令和2年度 在留外国人に対する基礎調査報告書, 283p, 2021.
- 出入国在留管理庁：出入国管理統計統計表(2021年), [https://www.moj.go.jp/isa/policies/statistics/toukei\\_ichiran\\_nyukan.html](https://www.moj.go.jp/isa/policies/statistics/toukei_ichiran_nyukan.html), 2022年10月31日閲覧 a.
- 出入国在留管理庁：在留外国人統計(旧登録外国人統計)統計表(2012年末～2021年末), [https://www.moj.go.jp/isa/policies/statistics/toukei\\_ichiran\\_touroku.html](https://www.moj.go.jp/isa/policies/statistics/toukei_ichiran_touroku.html), 2022年10月31日閲覧 b.
- (投稿受理：2022年1月13日  
訂正稿受理：2023年2月6日)

## 要 旨

本報告では、青森県弘前市において、ベトナム人技能実習生を対象に、地震を想定した避難訓練を2回実施した。その結果、今回の訓練に基づく方法は、他の外国人技能実習生が避難訓練に参加する場合でも有効である可能性が高い。また、避難誘導者に対して3時間の「やさしい日本語」の事前教育を行い、「フリップボード」に英語やイラスト(ピクトグラム)を併記し、「フリップボード」のサイズをA2版、フォントサイズを100ポイント以上にする事で、より効果的に避難訓練に活用できる可能性がある。